

平成27年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
次世代へつなぐ海づくり部門	アサゴ 佐世保市浅子地区 活動組織 (佐世保市)	平成25年度から藻場の回復に取組み、水産業普及指導センターや民間専門家等の技術サポート、講習会開催等による技術の向上と情報の共有を図りながら、ウニ等の駆除、保護区域の設定等を実施した結果、保護区域(約4,400㎡)において藻場が回復。
収益性の高い経営体づくり部門(団体の部)	松浦共同陸上魚類 (松浦市)	平成18年度からトラフグ陸上養殖に取組み、全国でもトップクラスの生産体制を確立するとともに、新松浦漁協等との連携によりトラフグ加工の拠点づくりにも取り組む。
収益性の高い経営体づくり部門(個人の部)	コシヨクブリ 溝川浩司 (長崎市)	「骨食鰯」(骨まで食べられる荒炊き)等従来品にない新規性を持った水産加工品の商品開発、製造、販売に取り組み、平成25年度長崎県特産品新作展(水産加工品部門)で最優秀賞、平成26年度長崎県水産製品品評会で水産庁長官賞を受賞。
活力ある漁村づくり部門	ヒロシ 山田博治 (平戸市)	漁業技術の指導により地域の漁業後継者を育成(4名独立、2名を指導中)するとともに、志々伎イカ釣り組合(任意団体)の設立による操業秩序の維持、まき網漁業との調整、男女群島におけるメダイ漁場の開発やイカ釣り用餌木(「早福型」)の開発など、様々な活動により地元だけでなく五島などの漁業にも貢献。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
次世代へつなぐ海づくり部門	ハンセイワン 半城湾会 (壱岐市)	平成23年から毎年1回、壱岐市郷ノ浦町の半城湾において、地域住民等百数十名の参加により、漁船を活用した海浜清掃により20~30m ³ のごみを回収。
収益性の高い経営体づくり部門(団体の部)	上五島町漁業協同組合 (新上五島町)	移動販売車の活用による福岡都市圏での消費拡大に取り組み、平成26年度の売上利益は当初の約2.5倍、仕入額は約2倍に増大し、漁協のみならず地域漁業者の経営安定にも貢献。さらに高齢化への対応のため島内直販事業にも着手。
収益性の高い経営体づくり部門(個人の部)	トウホウ 榊東峰水産 (対馬市)	地元のイカを主体としたスルメ加工や県総合水産試験場の技術を利用した傷イカの有効活用、白子・真子などイカの未利用・低利用部位の利用により、イカ漁業の安定に寄与。
活力ある漁村づくり部門	オウギ コウイチ 扇 康一 (対馬市)	Iターン者等への技術指導(3名が独立)、アマダイ延縄漁業等の操業方法改善、新漁法(アジ・サバ ^コ 漕ぎ釣り)、鮮度保持技術の導入、アマダイのブランド化(「紅王」)により地域漁業に貢献。

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員会会長賞)

部門名	受賞者名	概要
活力ある漁村づくり部門	魚のまち長崎応援女子会 (長崎市)	「魚のまち長崎」の認知度向上や市民の健康増進等のため、魚料理店のガイドブック4,000部の販売や、調理教室の実施等の魚食普及活動を推進。
収益性の高い経営体づくり部門(個人の部)	榊浜口水産 (五島市)	五島近海で獲れた新鮮な魚を原料に、県内産の塩と地元海水塩を混合した塩を使用するなど、地元産にこだわった練り製品の製造、販売促進に努力。